
妹は小さな最終兵器

淡海 青

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妹は小さな最終兵器

【Nコード】

N6232Z

【作者名】

淡海 青

【あらすじ】

交通事故にあつたはずの主人公は、目が覚めると全く知らない場所で幼児の姿になっていた。これっていわゆる転生っていうやつ？ ……でも、転生した姿が『人間』じゃなくて『人造人間』ってどういうことでしょう……？

【0】 とある研究所の一室にて（前書き）

初めましてです。

初心者のかせに「小説を書こう！」と思い立ったお馬鹿さんがここに約一名。

拙い文章ですが、生温かい目で読んでくれると嬉しいです。

自分の質問に対して、この中の唯一の『1人』
彼女はあ
っけらかとそう答えた。『飽きない』ではなく『嫌じゃない』
と答えたのがこの女の数少ない長所なのかもしれない。

彼女もまた、“それ”を眺めている。

そこは、この研究室とは巨大なウィンドウで区切られた一つの広い空間だった。その部屋の中央には赤い液体で満たされた円筒容器があり、それ以外には何一つない。

円筒容器の中には、一人の小さな子供が入っていた。

見た目10歳くらいの少女だ。頭や腕、足の裏や背中など、身体中のいたるところにコードが繋がれている。二つの瞳は閉じられていて、遠くから眺めている分には安らかに眠っているように見える。普通ならあまり見ない光景だが、この研究所ではそう珍しくもない。

「……んで、コイツはどの製品なんだ？
肉体がガキだつーのも
気になるんだが」

「この子は今まで造ってきた製品とは別物よ。キミのような『大戦
トシリーズ
機体』でもなければ、『実験検体』でもない。肉体がまだ子供なの
セカンドシリーズ
も、このようなタイプを造るのは今回が初めてだからってだけ」

「ってことは何だ、俺たちとは違うって言うのか？」

「そうコト」

彼女は円筒容器から視線をずらして彼を見つめると、どこか嬉しそうに笑った。

「この子は、今の私たちが持てる全ての技術を注ぎ込んだ『最終個体』……あえて言うなら、キミたちの“末の妹”ってところかしら？」

妹……？ と彼は怪訝な表情になった。

全く聞き慣れない単語だ。むしろ初めて生で聞かされたと言ってもいい。それくらい、自分には一切馴染みのない情報^{データ}のだから。彼はしばらく「妹」という単語についてぼんやりと考え、それから「馬鹿じゃねえのか」と吐き捨てた。

くだらない、と。

「ふざけた寝言吐いてる暇があるんなら、ちつとは部屋の掃除でもしやがれ」

「あら、照れなくてもいいのにー」

「勝手に言ってる」

この時の彼はまだ知らない。

この「妹」という言葉に、どんな意味が込められているのかを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6232z/>

妹は小さな最終兵器

2011年12月20日21時55分発行